

「あやちゃんの心磨き！」

10月の中旬から1才8カ月のあっくんと一緒に1ヶ月間の生活体験に来ているあやちゃん。今夜の大人会議では、パートナーが近々木の花を訪れるということで、みんなに次のような心のシェアをしてくれました。

あやちゃん：

昨日パートナーから訪問申込書が届いたので、これまでの経緯をみなさんにも報告したいと思います。あっくんのお父さんで、私と婚姻関係はないのですが一緒に暮らしているパートナーが11月の頭に木の花を訪問します。彼は私がここに来るきっかけをくれた人で、4年くらい前にここに2ヶ月ほど滞在していました。ここで心の磨き方を学んでいたのですが、自分でやっていこうと決めてここから離れました。でも、ここのことは理想だと思っていて、いつかメンバーになりたいという希望もあり、よくここのことを話してくれて、「あやも、いつか行ってみたいよ」と言っていました。

ここに来る前の数ヶ月間、彼と私の関係は最悪な状態で私は彼の言いなりになっていました。「この関係の悪さは全部おまえのせいだ」と彼が私に言うのですが、私はそれをそのまま受け入れて、何度も試行錯誤をしながら手を替え品を替え、自分で関係を修復しようとしてきました。でも、まったく上手くいなくて、「これは自分の力ではどうしようもない」と思った時に、彼が木の花を理想だと言っていたことを思い出し、ここに頼もうと思って来ました。

最初にいさどんと面談をした時に、「この関係の不健康さは、あなたの問題というより彼の問題の方が大きいよ」と言われて、すごくほっとしたというか、少し道が見えた気がしました。ただ、「彼の問題の方が大きいので、あなたがここで自分の心を磨いてあなたの分だけ問題を解決したとしても、彼が変わらなければ関係は修復しないよ」と言われました。私はここに来たからには自分の心を磨きたいと思っていたし、その時ちょうど、私と子どもとの距離が近いという指摘をいさどんからいただいていたので、とりあえずそこから始めようと思い、1ヶ月間の生活体験が始まりました。

最初の3日間くらいはいさどんとお話しながら彼の問題点について色々教えてもらう機会が沢山ありました。そして、彼の問題が大きいことを彼にメールで伝えたら、ものすごい反応が返ってきました。「うざい」とか、「うるさい」とか、「俺に構うな、おまえとは関係ない」という内容で、「これはどうしたらいいのだろう？」と思った時に、いさどんから「ちょっと離れてみたら？」という助言をいただいたので、そこから2週間彼と連絡を切ることにしました。

そうしたら、その間彼の中にも色々湧き上がる気持ちがあったようでした。ここに来る前

に私は滞在期間を 3 週間と設定していてそのまま彼との連絡も絶ったので、彼としては 3 週間後に帰ってくると予測をしていたらしく、ちょうど 3 週間目に彼から連絡があったのです。「今日帰ってくるのなら、帰ってくると連絡しろ」という口調で、ここに来て最初の頃のメールと同じような態度でした。私が「帰らないよ」と伝え、「帰ってこないのならおまえのことはもう知らない。荷物も全部引き払うし、家も全部引き払う。おまえとはもう縁を切る」と言いました。

その頃私は、いさどんやみんなと話していて、木の花の存在が自分にとってはすごく大きなバックアップになっていました。その時期にはここに移住したいという気持ちもありましたし、いさどんやみんなのことをものすごく信頼出来ていたのも何も不安がありませんでした。でも、私の目標としては彼との関係を修復したい。それはパートナーシップを直したいということではなくて、友達でも何でもいいから健康な関係をつくりたいというゴールがあったので、ここで縁を切られたらどうしようと躊躇する心が出てきました。でも、その時は彼が一方向的に電話を切ってしまい、「さて、困った」と思ったのですが、どうしようもなく、またこちらからあとで電話しようかなと思っていました。

そうしたら、その日のうちにまた彼の方から電話がかかってきました。「おまえとは縁を切るけれど、とりあえず一度帰ってこい。一応、話したいこともあるから帰ってこい」ということをしつこく言うので、「今日は帰らない。私はもっと勉強したいことがあるから帰りません」という態度を私がずっと続けて、その日の電話は終わりました。

次の日、また彼から電話がかかってきました。彼はパニックになったようなちょっとおかしいような状態で、「いいから帰ってきてくれ」とすごい剣幕で言ってきました。それでも私が「今の手持ちのお金なら 1 ヶ月ぎりぎりここにいられるから、それまでいようと思います」という態度を続けていると、彼がものすごく泣き出して、「ごめん、ごめん」と言い出したのです。「子供にも会いたいし、お願いだから帰ってきてくれ」という態度に変わったのですが、その日はそれで電話を切りました。

そして次の日の朝、彼から「助けてください」というメールが来たのです。「もう自分では自分を押さえきれないし、すごく辛いから助けてくれ」というメールが来ました。最初のいさどんとの面談の時に、「彼が助けてくれと言ったらチャンスだよ」といさどんが言っていたのを覚えていたので、「ああ、これがチャンスなのかもしれない」と思いました。ただ、その日はすぐにいさどんと話す機会がなかったので、「さてどうしようか？」と自分で考えていました。

そして昼休みに、「頑張って自分を直しませんか？ここだったらあなたを助けてあげられるから、一緒にここに来て勉強して健康になりませんか？」というメールを送りました。そうすると、すぐに連絡が来ました。彼は赤ちゃんのように大泣きをしていて、「メールを読ん

だら涙が止まらなくて仕方がない！なんでこんなに泣けるのかわからないけれど、メールを読んだら涙が出て止まらなくなった！」とすごく泣いていて、「俺は変わりたい！変わりたいって思う！」と書いていました。しかし、ふっと冷静になって、「変わりたい、変わりたいと思うのだけれど、でも心の中では変わりがたくないと言う自分もいる。今は変わりたいと言っているのだけれど、夜になったら変わりがたくないと言うかもしれない。いつもそうだった。ふたりの自分が自分の中において、どちらを選んでいいのかわからなくなってしまい、いつも楽な方を選んでしまう」というようなことを書いていました。そこで私が、「とりあえず今、自分がおかしいことはわかる？」と聞いたら、「おかしいことはわかる」と言ったので、「おかしい人が判断してもそれは間違えることが多いから、とりあえずこれからの判断は木の花に委ねたらいいんじゃない？」と言ったら、「わかった」と言いました。でも口だけだと不安だなと思ったので、「じゃあ、それを紙に書いておきなさい。それなら覚えていられるし。もし、夜に電話をかけた時に覚えていなかったらもう電話を切ります」と言って、電話を切りました。

その日の夜にまた電話がかかってきました。パニックはもうおさまったようですごく落ち着いた感じで、昼間話した委ねることも覚えていました。その後何時間も、彼が反省したこれまでの色々なことを聞いていました。それで最終的に彼は、「木の花に行きたいという想いはあるけれども、敷居が高い」と言いました。すごくプライドが高い人なので、2ヶ月間ここにいたけれどやれなかった。いまさらまたお願いしますと帰れないという想いもあるし、かっこ悪いという想いもある。それに、まだ自分の力を信じる気持ちも強い。彼だけではなかなか踏み出せない状態だったので、私が無理やりにでもここに引っ張ってこないといけないうのかなとも思いました。でも、彼は安定した状態だったし、「ここにいつかは来ようと思う」と言っていたので、良くなってきたけれどまだ信用は出来ないなと思いながら電話を切りました。

その次の日も電話をしたのですが、私に依存傾向があるようなちょっと甘えた口調が多かったので、それをいさどんに報告したら、「甘えが出ているから、また距離を置いた方がいいね」と言ってもらいました。それから2日間はメールや電話を絶ちました。彼から「電話をしてもいいか？」というメールが来ても、「今日は電話で話せない」という返事を返していました。

そうしたら、その間に彼は色々と考えていたみたいで、「やっぱり木の花に行きたい。助けてほしい」というメールが来たのです。神様や自分のことをもっと知りたいという想いも出てきたようでした。話し方も安定しているし、木の花に来たいという想いも固まってきたので、「木の花に来る計画をふたりで立てようね」と言いました。ただ、彼は職場で頼りにされているようで仕事をやめにくいから、すぐに長期滞在は出来ないと言ってきました。だから、「とりあえず短期間でもここに来る計画を立てよう」とふたりで話しました。そのことをいさどんに報告して、「期間は決まっていますが、とりあえず彼がここに来ると言っ

ていますので、よろしく申し上げます」と伝えました。いさどんからは、「いつ来るのかということを決めずに、流れに乗っていくぐらいがちょうどいいよ」という助言をもらいました。

そうしたら彼からメールが来て、「やっぱり早く自分のことを知りたいし、あやがどんどん変わって行って僕が追いつけなくなるのが怖い。自分も早く追いつきたいし、一緒に船に乗りたい。神様に委ねるという方法も知りたいし、自分が本当に光の存在であるのかを知りたい」と言い始めたのです。そして、「11月の頭に連休が取れるから木の花に行きたいです」と言ってきました。その時点でいさどんに報告しようと思っていたのですが、私はまだ彼の行動を信じていませんでした。とりあえず彼が訪問申込書をきちんと出して本当にやる気になったのか確認出来てから報告しようと思っていたら、昨日ここに彼からの訪問申込書が届いたのです。本当に色々な人に私の話を聞いてもらっていたのですが、聞く度にみんなから色々なことを教えてもらって、全然心配や不安になったりせずに、すごくスムーズに話が進んだので自分でもすごくびっくりしています。

例えば彼から電話が来る時でも、ちょうど私の手が空いた時に電話がかかってきたり、私から彼にメールをしようと思った時に向こうから連絡が来たり。「いさどんと早く話がしたい!」と思った時に、ちょうどいさどんが帰ってきたり、ハウスで仕事をしているとたまたまいさどんが通りかかってくれたり、勝手に次々と現象が起きるので、不安になったり疑うことなく、本当にすべてが用意されているように感じました。こんなにスムーズに事が進むので、神様という存在を信じざるを得ないような毎日でした。「すべてを任せたらいいんだ」と楽な気持ちにもなれたし、そういう存在がバックにいるだけですごく心強いです。いさどんから「あなたの魂のタイプはすごく影響を受けやすいし、不安定なタイプだ」と始めから言われていて、当たっていると自分でも思っていたので、ここでの生活を不安に思っていた時期もありました。しかし、今は毎日を不安なく過ごせています。落ち込む時があっても、落ち込む自分を背後から見ている自分がいて、「落ち込んでもいいけれど、上手いこといくから大丈夫だからね」と言っている自分がいるのです。今は自分が安心して落ち着いているなと思っています。

最初は自分の魂のタイプがすごくまわりの影響を受けやすいということで、ちょっと嫌だったのですが、今は自分がなくてこれだけ素直に色々なことを受け入れられてきたので、「私の魂の形で良かった!」と思っています。彼との関係でもすごくひどい言葉をかけられてきたのですが、彼は一応2ヶ月間木の花にいて、木の花で色々なことを学んでいたから、ひどい言葉を投げかけながらも、木の花での教えを私に教えてくれました。私もここに来る前に木の花の教えを予習してこられたので、ここに来てみなさんが色々教えてくれる言葉は一度聞いたことがあることが多く、すごく自然に自分の心の中に入っていました。そういうことを考えても、辛いことは沢山あったけれど、彼と出会って色々な経験をして良かった! 予習出来たしラッキー! と今は思っています(笑)。

長々と話してしまいましたが、みなさん聞いていただいてありがとうございました（みんなからのあたたかい拍手が続きます）。

でも、彼がまだここに来ていないので、気を抜かずに（笑）、また次のことを考えたいと思っていますので、みなさんよろしくお願いします。

いさどん：

今の彼女の話では、ここに滞在してからの流れが非常にコンパクトにまとまっています。僕は彼女自身の人間性から親子関係、特に彼との関係を今後お互いにとってどのように良いものにしていくのかというアドバイスをしてきました。当初、彼女と彼の関係というのはそれこそ主人と奴隷のような関係でした。あやちゃんは彼のことが大事だということと、彼女自身に依存心があるので、自分が辛くても反発して離れるということが出来ない状態でした。だから、彼の言うことなら無理な注文でも聞いて相手に気に入られようとしてきたのです。しかし、あやちゃんが彼の言うことを聞けば聞くほど彼はイライラするというカラクリがそこにはあります。このカラクリがわかりますか？つまり、実は彼は彼女を支配しようとしているのではなくて、実は逆で依存したいのです。だから無理難題を言って、そしてそれをいさめてくれる人を本当は求めているのに、あやちゃんも彼と同じ依存タイプだから、彼の言いなりになることによって自分が依存出来る対象を獲得出来ると思っていました。しかし、彼女が彼の言うことを忠実にやればやるほど彼はイライラしてきて、そのイライラがふたりの関係を余計悪くする。その中で子どもが育っていくから、良い親子関係を築くことも出来なければ、良い夫婦関係もないという状態です。

彼女がここに来た時には、表面的には非常に混乱している状態でした。しかし、話を聞いていって何が原因かということを探っていくと、彼女は常に一方的に表面を見て、相手の言うことに対して反応して答えているだけということがわかりました。そうすると、この場合問題の原因は彼の方にあります。彼女はあまり難しいことを考えず、ただ出来事に反応するという心の体質なのです。だから、ここにいたら子どもとの関係は良くなるけれど、この親子関係がいくら改善されても、もとの彼との関係に戻ったら、またたちどころに関係が悪くなる。彼女が「問題はあなたの中にある」と彼に伝えた時に、プライドが高くて人から指摘されたくない、特にあやにそんなことを言われることは絶対に許されないという支配関係にあるものだから、彼はものすごい剣幕で怒ってきました。でも、そこで僕が彼女に伝えたのは、「それは気にしないで大丈夫ですよ。あなたは彼の本質を知らないのだから、それを超えて彼をいさめていくという姿勢をあなたが取っていたら、そのうち彼がギブアップして助けてくれと言ってくるだろう」ということです。そして、僕も途中で彼女に色々アドバイスをしながらか、結局思惑通りになってきました。

あやちゃんの話聞いていてもわかると思うのですが、彼女は現在「いさどんもどき」にな

っています（笑）。あなたはそういう人になれるのです。お釈迦様の話で、お釈迦様の弟子で物覚えが悪くなかなか道が進まない人がいました。しかし、その人は他の弟子より自分が劣っているからということで、尊師の言うがままに日々を送ろうと考えたのです。そうしたら、弟子の中でもっとも早く悟りに至りました。尊師の悟りのままにそれをなぞっていったら、そのままになるのは当たり前のことです。そうすると、あやちゃんは自分というものがいないから自分の将来が不安だった。しかし、自分がいないがために貴いものに出会ったら、貴いもののままになった。逆に、愚かなものに出会うと愚かなもののもまになってしまふ。それがあやちゃんという人です。彼女が僕のアドバイスを素直に受け入れ、彼との接し方を身につけ、不安がなくなってきた。そのうちにふたりの支配関係が逆転して、彼が助けてくれと言い出し、あやちゃんが彼を導いていくという関係になった。当初の関係では絶対にあり得ないことが、今起きているということなのです。

昨日さーさんと面談をしたのですが、彼女は全体を把握しながら物事の奥にある本質を捉えていくということをせず、ひとつの話の結論を出さないでどんどん次へ進んでいくという傾向があると伝えました。「どうしてそうなったと思いますか？」と彼女に聞くと、「前世に問題があったのではないのでしょうか？」と言うから、僕は親子関係から来ているのではないかと言いました。そのことについて昨日さーさんと 1 時間半くらい話をしたのですが、どうしても話が本質をつかむところまで行かないのです。だから、今日はこれで中断ということで終わりにになりました。これについては続きの話をまたどこかでやらないといけな思っているのですが、今のあやちゃんの変化と対比させてこれはどういうことなのかと言うと、さーさんはすごく自分が強いのです。それで、相手にそのまま素直に沿っていく、流れをいただいでいくことに欠けていて、そこが一番の彼女の問題なのではないかと思っています。昨日は、「あまり時間ばかりかけても仕方がないから」ということで途中で話を終わりにしたのですが、そのあたりが今見えてきました。

そうすると、自分がなくて自分の進む道を開いていけないあやちゃんのような人でも、こういうふうに変身出来るということです。これは決して、あやちゃんがいさどんになったわけではないのです。今のように日々の中でなることがなっていくということです。そして、ちょっと自分に自信がないなと思った時に、後ろに何かしっかりとしたものがあって自分を支えてくれる。彼女の中に見えないもの、僕よりももっと大きなものを感じられるようになってきたという例です。こういった人の模範になれる捉え方です。

日蓮正宗の修業の中に勤行唱題というものがあります。勤行というのは法華経を唱えてそれをマスターすることです。唱題業というのはただ南無妙法蓮華経を何万回でも唱えましょうというものです。その日蓮さんの教えによると、勤行よりも唱題業の方が大切であり功德をもたらすと言われていています。普通、勤行という法華経の道理を学んでそれをマスターすることの方が大切なようですが、理屈はわからないけれど、私は本当にそれを信じて帰依しますという心が出来れば、あとから勤行という理屈はついてくるものです。その信ずる心が出来

ると、早くその真理を会得出来るということを言っているのだと思います。

そういった意味で、あやちゃんは良い事例です。一見信ずることが足りない人、自分で切り開けないような人でも、誰でも貴いものになれるというひとつの事例です。来た当初は表面的なことしか受け取れなかったあやちゃんですが、無理だろうと思っていた彼をいざなって次のステージにまで行くというところまでこぎつけた。そして、その後何て言ったのかといたら、「まだここに彼が来ていませんので、先のことはわかりませんが」とそこまで読んでいるというのは、今までの彼女にはないどっしりとした人がそこにいます。だから、そのままやってください。これは僕が奨励することではなくて、あなたが信じた結果、あなた自身にこのことの利益がすでに現れてきているのだから、自分で感じてそれを信じてやっていけば、物事はすべてスムーズに流れていきます。

あやちゃん：

信じるだけで、こんなにも沢山もらえるというのはすごく簡単なことですね！

いさどん：

それはもらえるのではなくて、当たり前前の出来事に出会ったということです。

あやちゃん：

信じるということは本当に効率が良いです。やったー！みたいな（笑）。本当に私は自分というものが無いので、考えずに、ただ任せて信じるだけでこんなに上手くいくのであれば、これほど私の性格にぴったりのものはないと思っています（笑）。それに甘え過ぎてはいけないけれど。

いさどん：

そうです。だから、それに依存し過ぎずに学んでいくとことが大切です。

みかちゃん：

あやちゃんから彼とのことで相談を受けた時に、すごくしっかりとした口調で話す人だと思いました。最初に来た時には迷いの中にいるという印象だったので、ここに来て大分変わったのだと感じていました。ここに来て変わる人は大勢見るけれど、ここは人を変える場所だと改めて思ったのと、今日話を聞いていたらあやちゃんがここまで変わったと知って本当に嬉しいです！

さのっち：

あやかりたいなと思いました（一同、笑）！

いさどん：

そうそう。さのっちはこういった人にあやからないと（笑）。あなたはぐじゃぐじゃし過ぎ  
なんだから。

ともちゃん：

あやちゃんの話には余分な色がなくてすごく聞きやすかったです。今までのことについて話  
していても、自分に余計な想いが乗っからないで事実を綺麗に話している感じで、これが流  
れに乗るといことなんだなと思いました。すごく自然で、物事の方からタイミング良くや  
ってくるというのを見せてもらっているようでした。

かずこちゃん：

私はあやちゃんと作業が一緒になることが多かったので大体の状況というのは知っていた  
のですが、自分が変わることで子どもや彼とのことがどんどん変わっていくというのを見て  
一緒に勉強出来ました。

みきちゃん：

あやちゃんは本当に素直で、そういう真っ直ぐさがこういう出来事につながっているのだと  
思います。あっくんのこと「みんなにお任せします！」という素直な態度が伝わってきて、  
感心して見えています。

まっちゃん（司会）：

話は尽きないのですが、みんなあやちゃんにあやかりましょう（一同、爆笑）！彼が来るの  
も楽しみですね！

--

そして数日後、いさどんに相談するため彼がここを訪れました。彼が一泊して帰った日の大  
人会議で、いさどんは次のような報告をしました。

いさどん：

昨夜あやちゃんの彼と面談をしました。彼はメールであやちゃんとやりとりをしている時は、  
牙をむいてすぐに噛みつくヤマネコのようなようでした。しかし、小心者のヤマネコです。彼を手  
なづけようということでこれまであやちゃんに色々アドバイスをしてきましたが、彼はこ  
こに来たとたんにポチになってしまいました（笑）。結局、彼の中にジギルとハイドがいて  
その調整が取れていないものだから、ポチの方がどうしてもヤマネコに負けてしまって、ヤ  
マネコが出て来た時にコントロール不可能になってしまって自分でも困っているという状  
態でした。それをどうするのかということで彼に色々アドバイスをしたのですが、最終的  
に、「結論は自分で出しなさい。問題点は自分でわかっているのだから」と伝えました。

面談後、彼は大人会議も出ずに考えていたようで、会議が終わってから僕のところに来ました。彼の出した結論としては、「木の花に来て、木の花の人に見てもらいながら自分を育てたい。会社には素直に現状を伝える。そして仕事を辞めて向こうでの生活をたたみ、木の花で生活を始める」ということでした。だから、向こうでのけじめをつけ、こちらに引越してくる準備をするために、今回あやちゃんは彼と一緒に帰っていきました。そして、「僕らが戻ってくるまで子どもはこちらで預かってもらえますか？向こうに帰っていったら3人になると、せっかく今子どもとの適度な距離を保っているのに、また元に戻ってしまうと思います」と言うので、「こちらにそのまま滞在していれば完全に距離をつくる事が出来るものだから、それも良い機会だね」ということでそういう結論に至りました。

彼は相手によって何にでもなります。自分の凶暴なところをもてあましていて、あやちゃんも、「彼がそういう人格を表現出来るのは不思議なくらい」と言っていました。あやちゃんはこの環境でさっと変わって安定した状態になりましたが、それを事例に、「あなたもやる気があれば変われますよ」と彼に伝えていました。彼が自分で自分をコントロール出来ないということは、誰かにコントロールしてもらいたいという心がもともとあるのです。彼は、「それならここはうってつけのところだ」ということで、ここに来る決断をしました。将来メンバーになるかどうかは今のところ白紙です。まずは、自分を立て直すということで、良い決断をしたと思っています。

--

それからさらに数日後、本宅で子どもたちがにぎやかに遊びまわっている中、無邪気にみんなと笑っているあっくんの姿が見られました。あっくんはまだ1歳8カ月ではありますが、血縁のお父さんとお母さんと一緒に暮らしていなくても、ここで沢山のお父さんとお母さんに見守られ、沢山のお兄ちゃんとお姉ちゃん、弟と妹たちと一緒に楽しそうに過ごしています。

あやちゃんと彼の心磨きはまだ始まったばかり。これからふたりの心がどのように変化し成長していくのか、物語はまだまだ続いていきます。